

(様式2)新規評価シート

建設部 砂防課

事業名		急傾斜地崩壊対策等事業		路河川名等		古間	
事業毎の通番		10		市町村名		信濃町	
事業目的		当該急傾斜地は、信濃町古間集落の東斜面で高さ10～19m傾斜度30～39度を有し斜面下端には10戸の民家が存在する。上端には旧古間小学校の跡地に信濃町地域交流施設が整備されており災害時の避難所として指定されている。グラウンドも災害発生時のヘリポートとして地域防災計画上の避難所として位置付けられている。斜面の崩壊と落石による被害から、対象地区住民の生命及び財産を保全するため、早急に対策が必要である。		箇所名(ふりがな)		古間(ふるま)	
しあわせ信州創造プランにおける位置付け		4-1 地域防災力の向上		事業実施の根拠法令等		急傾斜地法	
関連する事業、計画等							
保全対象・範囲 受益対象・範囲		保全対象: 人家10戸 公共施設: 信濃町地域交流施設、町道					
着手年度		平成27年度		事業期間		4年間	
完成年度(見込み)		平成30年度		費用対効果		3.1	
全体事業内容(主な工種)		法面工 L=360m		事業費(千円)		財源内訳(千円)	
年度事業内容(主な工種)		・地質調査 1式 ・地形測量 1式 ・詳細設計 1式		15,000		国庫 71,250 その他 7,500 県債 64,125 一般財源 7,125	
事業効果		直接的効果(定量的・定性的) 土砂災害特別警戒区域指定の解除					
		間接的効果(定量的・定性的)					
必要性		○人家戸数 : 10戸 ○公共施設数 : 2箇所 信濃町地域交流施設、町道 ○災害時要援護者施設の有無 : 無 ○避難場所、避難路の有無 : 有					評価
重要性		○過去の災害履歴 : 無 ○交通遮断による地域経済への影響 : 中 ○地域防災計画上の位置づけ : なし					評価
効率性		○費用便益比(B/C) : 3.14 ○事業期間 : 5年 ○工法等の比較検討 : なし					評価
緊急性		○斜面の高さ : 15m ○斜面平均勾配 : 32° ○地質 : 段丘堆積物 ○オーバハング、遷急線、谷地形、凸地形 : なし ○植生 : 普通 ○保全対象の位置 : かけ下					評価
計画熟度		○事業情報の共有 : 関係者を中心に周知 ○地域の取り組み : 協力的である ○地域の合意形成 : 合意形成が図られている。 ○住民との協働 : 独自の取り組みを検討中					評価
部意見		保全対象に人家10戸、村道、避難所がある。斜面は風化による浸食が進んでおり、早期に対策を行う必要がある。		行政改革課意見		保全対象に人家、公共施設があることから、必要性は認められる。	
				評価結果		総合評価	
				○		B	

【位置図、平面図、構造図等】(縮尺任意)	
<p>全体計画 法面工 L=360m H27 測量・調査・設計 1式</p> <p>地域交流施設(避難所)</p> <p>吹付法棒工 35° 10.0m</p> <p>【整備の必要性がわかる状況写真等】</p>	
<p>地域交流施設(避難所) 保全対象</p>	
①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	当箇所は、土砂災害防止法に基づく特別警戒区域及び警戒区域に指定されている。斜面は、山地状地形を呈し、斜面高は5～19m程度、斜面傾斜角30～35°程度である。斜面上には災害時の避難所である地域交流施設があり、斜面直上のグラウンドは災害時にヘリポートとして使用される。斜面下には10軒の人家があることから、急傾斜地崩壊危険区域の指定を行い、斜面崩壊対策工として擁壁工を実施したい。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	信濃町役場を通じて地元区から事業要望があり、平成26年10月8日には、地元役員と共に現地調査を実施。
③事業説明等の経緯	現地調査の際に事業採択された場合の事業概要を説明。
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	特になし。
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	連続繊維補強土工を施工することにより、斜面の立木は極力存置し、環境及び景観に配慮する予定。
⑥地域活性化への影響と配慮	本事業の実施により、斜面の崩壊に対する安全性が向上することにより、地域の発展が期待される。
⑦その他	事業代表地点の緯度経度 北緯:N 36° 80' 02" 東経:E 138° 22' 34"